

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立 春日 高等学校長 印

53

学校運営計画 (4 月)		評価 (3月)			
学校運営方針	次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。				
昨年度の成果と課題	<p>年度重点目標</p> <p>具体的目標</p>	○			
<p>本校は今年度、創立40周年を迎える。入試制度改革や新学習指導要領の実施を控え、対応のシステム構築と職員の共通認識が必要である。また、生徒の主体的な高校生活という部分に課題を感じている。「させられる」学びから「する」学びへの生徒の意識変革を図る必要がある。そのためには、先述の教職員の意識変革と共通認識や教育課程の見直し等が急務である。今年度も昨年度に引き続き「自主性を育む指導」を教員の意識変革の主眼とし、今年度の課題とする。</p>	<p>(1)「春日高校五常」とおして、人としての在り方生き方など豊かな人間性を育ませる。</p> <p>(2)学ぶ意義について考えさせるなど、自主性を重んじながら「授業心得五行」を徹底し、学力の向上・深化を図る。</p> <p>(3)部活動や学校行事のさらなる充実・活性化を図る。</p> <p>(4)多様な人やものの考え方への理解を深めさせ、仲間とともに積極的に協働する態度を育ませる。</p>		<p>教師の率先垂範による「笑顔、挨拶、時間厳守、清掃活動など」凡事徹底を図る。</p> <p>教育活動全般を通じて「自主的に取り組もうとする意欲やリーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション能力」などの資質・能力を育ませる。</p> <p>積極的な生徒観察により生徒理解を深め、強い信頼関係を築くとともに、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努める。</p> <p>アクティブラーニング等の学習指導法について、研究・研修を深め実践し、生徒の能動的な学習態度を育む。</p> <p>教職員の組織力を活用し、進路実現に向けた積極的な個別指導を行う。</p> <p>日々の清掃活動を通して、美化意識を高揚させる。</p> <p>地域との連携や様々なツールを活用し、積極的な広報活動に努め、さらなる信頼関係の構築に努める。</p> <p>分掌の年間目標について、中間時点等で評価し、必要に応じて修正・改善を加えながら、学校経営計画の実現を図る。</p>		
評価項目	年度重点目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務課	各生徒の実態に対応した教育環境の整備を図ると共に、学習支援体制の強化を推進する。年間授業時間数の調整を図り、バランスのとれた学力の伸長を促す。生徒の自主的・積極的な学習活動を教員がしっかり支えたと共に、進取の意気や未知の分野に挑戦する雰囲気醸成に尽力する。各生徒の生活習慣・実態を把握し、持続可能な学習習慣の定着を図る。	生徒の第一志望進路先や学習実態に対応した教育課程・教務内規の更新を図る。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいタイプの入試や新課程に対応して、教育課程・教務内規の更新を図る。 ・クラス数の増加に対応して、使用教室や時間割の運用に細心の注意を払う。 ・生徒や保護者との面談に十分な時間を割けるように、学校行事や授業の時制を工夫する。 ・生徒の生活時間や生活習慣を把握したうえで、学習習慣の改善を図る。
		教室の設備や備品の整備を進めて、ALを大いに採り入れた教育環境に即応する。	△		
		学問の厳しさの中にも人間的な温かみのある授業の雰囲気づくりを支援する。	◎		
		時間割の作成と運用に細心の注意を払い、日々の授業運営を支える。	○		
		キャリア教育課・企画広報課との連携を図り、生徒の明確な進路目標設定を後押しする。	○		
		成績上位者掲示や面談の時間を通して、生徒の達成感や自己肯定感を実感する環境を整える。	◎		
教務部	<p>よき伝統を受け継ぐとともに、40周年という節目を機に、時代に即した式典や諸行事の企画・運営を行う。</p> <p>今まで以上に広報活動に力を入れ、中学校や地域に対して、本校の魅力を伝える。</p> <p>PTAとの連携を深め、保護者や地域の意見に耳を傾けつつPTA活動を支援し、本校発展に寄与する。</p>	文化委員による時間割連絡や掲示物の整備を通して、教室の学習環境づくりをサポートする。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会とPTA講演会の出席率を上げる。保護者は勿論、教職員の協力を強化する。 ・中学校PTA訪問の受け入れの見直し。 ・学校行事ポスターについては、担当者と事務と業者との計画、連絡を密にして、早くから取りかかる。 ・中学生の体験入学については、実施方法や実施場所の早めの検討。
		質問に答える時間や悩みを相談できる場所と時間を確保できるように時制や行事を運営する。	○		
		生活時間調査により、生徒の学校外での生活実態を把握し、生徒指導に積極的に活用する。	○		
		生徒の出欠状況や部活動生徒の学習成績の情報共有を図り、生徒の全体像を把握する。	○		
		上級生や卒業生の経験や取り組みの具体例を生徒間で情報共有し、学習習慣の改善を図る。	○		
		式典において、椅子の配置、入退場の経路、生徒による看板の作製等を検討する。	○		
情報管理課	各業務に関連するICTについて環境整備を図る。教職員のICT技術向上を図る。視聴覚教材の管理を徹底する。	防災避難訓練において、地震と火災の両方を想定して訓練にあたり、消防署からの講習をいただけるよう計画し実施する。雨天時用に予備日を設ける。年度当初に避難経路図を作製し掲示する。	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報推進委員会・iKitプロジェクトは当課設置以前の組織で、現在は機能していない。廃止も含めて今後検討する。 ・一部の先生は積極的にICT教材を利用した授業を実施していた。今後はそれをサーバ内に保存し、全職員で共有したい。 ・生徒用ネットワークが3月に刷新されるため、その影響を受ける機器のマニュアル化は来年度へ先送りした。 ・電子黒板が2台ともLL教室にあるのは非効率だ。来年度の講義室配置を見て、講義室での常設を検討する。
		中学生や中学校PTA訪問において、教務課と連携を図りながら受け入れを行い、学校説明・校舎案内・授業見学を通して十分なアピールができるような準備や計画をもとに実施する。	○		
		中学生の体験入学において、全体会を2会場にするか等の検討を早期に行うとともに、「中学生との交流会」をさらに充実させる。	◎		
		学校行事ポスター等を本校生徒に中学校へ持参してもらうよう計画する。	○		
		情報管理課と協力して、学校案内パンフレットや「春日の風」に掲載する写真や内容を充実させる。	○		
		PTA主催行事(PTA総会、春日祭での出店・展示、視察研修、講演会、ぜんざい会)において、全職員で支援し協力する。	△		
情報管理課	<p>成績処理のマニュアル化と新科目増への対応を確実に図る。</p> <p>マークシート読み取りソフト等の利用を促進し、学年や分掌などの業務分担の軽減を図る。</p> <p>情報推進委員会・情報セキュリティ委員会・iKitプロジェクトなどの組織構成を再考する。</p> <p>メール配信の活性化とホームページの刷新を図る。</p> <p>ワード、エクセル等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて助言を行う。</p> <p>授業で使えるICT教材について、サーバーなどを通じての共有化を図る。</p> <p>電子黒板を含めた教材の貸し出しについて、ポータルサイトの運用を推し進める。</p> <p>使い方の難しい教材については、必要に応じて使用法のマニュアル化を図る。</p>	広報委員と連携をとりながら、PTA広報誌「須玖の里」に掲載するための原稿依頼等に柔軟に対応し、委員会活動を積極的に支援する。	◎	○	
		広域連携を深め、保護者や地域の意見に耳を傾けつつPTA活動を支援し、本校発展に寄与する。	◎		
		情報推進委員会・情報セキュリティ委員会・iKitプロジェクトなどの組織構成を再考する。	△		
		メール配信の活性化とホームページの刷新を図る。	○		
		ワード、エクセル等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて助言を行う。	○		
		授業で使えるICT教材について、サーバーなどを通じての共有化を図る。	△		

生徒部	生徒指導課	豊かな人間性を育ませ、地域・社会で信頼される人物を育成する。	様々な活動の中で「春日高校五常」を意識させるとともに、①笑顔で目を合わせて挨拶②時間に余裕を持った登下校や5分前行動③言われる前に行動する自主・自律の姿勢を身につけさせる。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、地域の方からのマナーやルールについてのご指摘が頻繁にあつているので、全校や学年・クラス等で引き続き指導をしていく。また、生徒相互のかかわりにより改善していく力も身につけさせる。 40周年行事を生徒の真面目な取り組みにより成功させることができた。次年度も生徒会執行部を中心に活性化に努めたい。 部活動は体育部・文化部共に多くの成果を残しているため、今後もルール等を守らせながら支援していく。 特に自転車通学者に対して、生徒会執行部と連携しながら定期的な指導を行う。 学年・分掌・部活動との連携を強化し、いじめ防止やつまずきへの早期対応を図る。 	
		創立40周年を節目にして、学校行事等へのさらなる意欲的参加を促し、リーダーシップやフォロワーシップ、コミュニケーション能力を育む。	学校行事等の企画・運営を積極的に生徒に行わせる等、自主的に取り組む機会や時間を増やし「自主・創造の精神」や「コミュニケーション能力」を養う。	◎			◎
		自他の安全・安心を確保するための指導の充実及び継続。	生徒会執行部と各専門委員会を機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図るとともに、活動内容の広報を学校内外に広く周知する。	○	◎		
			部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、「心」の指導を充実させることで、リーダーシップやフォロワーシップを発揮できる生徒を育成する。	◎			
	保健課	保健指導を適切に行い、健康問題に理解と関心を高め、自ら積極的に解決していく自主・実践的な態度を育成する。	交通安全教育の充実を図り、交通マナーを向上させるとともに、非行防止・防犯教育・自己防衛教育(SDE)を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。	△	○		<ul style="list-style-type: none"> 次年度の健康診断を関係機関と協議し計画を立てる。 支援の必要のある生徒、護者への情報提供の継続。対象生徒、予備群生徒増加のためにカウンセリング事業拡大を希望する。 整美委員会(コンクール点数化で高揚。奉仕活動の工夫。)GS委員会(花壇・プランター管理・古紙回収の定着)の活動充実しているが、個人・クラスや全校全体への美化意識・活動まで発展させたい。 30年度福岡県高等学校保健会中部ブロック事務局の準備体制
			「学校生活アンケート」等の有効活用による積極的な生徒観察や関係分掌との緊密な連携をとおり、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努め、教員間で情報を共有する。	○			
			健康診断・健康観察等とおして、生徒が心身ともに健康的な生活が送れるよう指導する。	○			
		掃除に対する啓蒙活動を充実させることにより、美化意識の高揚とエコ活動の推進を図り、環境美化に取り組む。	学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理や安全指導に関する保健・安全指導を適切に行う。	◎	○		
			学年会・生徒サポート委員会を通して、スクールカウンセラー・家庭訪問相談員・特別支援教育コーディネーターとの連携を高め支援体制の充実を図り心の健康維持・増進に努める。	○			
			整美委員会の更なる活性化を進め、全校生徒の環境衛生・美化意識の高揚を目指す。	○	○		
安全点検(A区分・B区分)を定期的に行い、安全で快適な学習環境を作る。	○						
グリーンスタッフ活動(花運動・古紙回収)の充実を図り、環境に優しい学校づくりを目指す。	◎						

進路 指導課	情報の共有化、データ処理の簡素化・マニュアル化を推進し、進路情報の有効活用を広める。	①進路関係の文書・データの共有化および一元化	◎	◎	近年のデータ処理などの一元化により、資料の正確さや提供速度も安定し、学校全体の一元化を図ることができつつある。次年度の大きな課題としてはまず、データ処理をできる人材育成である。次に進路部の体制作り、具体的には進路室での職員常駐や学年を超えた情報共有である。これまでの学年主導の良さを活かしながら、3年間を見通した進路指導を行うことができる体制を作り、積極的に発信するための情報を共有するとともに、職員の進路意識向上を図りたい。
		②情報管理課と連携し、データ処理の簡素化による迅速且つ正確な成績処理、進路資料の提供	◎		
		③各業務のマニュアル化推進、情報処理の課内研修会実施	○		
	必要に応じた進路資料の提供や、進路検討会、模試分析会等の企画・立案をし、全職員の進路指導力の向上を図る。	①模試・学力テスト等の分析に必要な資料の効果的・適期な提供	◎	○	
		②学年の進路指導活動におけるリーダーシップ	○		
		③進路のしおり「春風」の内容充実と有効活用	○		
		④外部講師による進路学習会(職員向け・生徒向け)の活用	△		
	進路関係の行事や課外・模試の充実を図り、生徒の進学意識を高め、学力の向上を図るとともに、自主的に学習する態度を養う。	①学年ごとの進路説明会(コース説明会での実施を含む)の内容充実	○	○	
		②生徒の自主的な学習を促す課外・土曜活用講座の内容検討	○		
③課外・土曜活用講座の遅刻・欠席者の指導体制の構築		○			
④進路資料室の環境・資料充実、生徒の有効活用		○			
進路部	様々な活動や行事を通して、進路決定に必要な知識や能力を習得し、適正な勤労観、職業観を育成する。	1年生では、「中学生から春日生へ」「小論文講座」を通して、聞く力、話す力、書く力を身につかせ、豊かな人間性を持った生徒を育成する。	○	○	3年間の総合的な学習の時間を抜本的に見直し、外部(九州大学や春日市など)との協力やキャリア教育と関連付けて、1学年から3学年まで体系的かつ教科横断的に取り組んで、学校全体、全職員で生徒の進路に対する意識改革を図り、進学や就職の志望理由を明確に考えさせることが課題である。 また、社会人講話は同窓会とタイアップし、職業と学問のつながりや仕事のやりがいや内容についてはもちろんのこと、地域や社会の課題についても話していただけるような内容にしておくことも検討したい。 外部の色々な行事(留学や科学コンテストなど)への積極的参加を今年以上に促す。 各学年への連絡や集約が徹底できていなかったため次年度は改善する。
		2年生では、「課題研究」「ライフプラン」を通して、調べる力、考える力を養い、自分の進路について考えさせる。また、主体的に探求する力や場に応じた適切なコミュニケーション能力を育成する。	○		
		3年生では、進路決定について、進路指導課と協力し、生徒の適正な勤労観を育成する。また、生徒が自己の進路目標を最後まで諦めず、高い志をもち、心身ともにたくましい生徒を育成する。	○		
	外部組織との連携による活動を通し、生徒の進路意識を高めるとともに、自己の在り方、生き方や考え方を育む。	外部での体験活動等に積極的に参加させることで、興味深い学問の世界や様々なものの見方、考え方に触れ、自己の在り方を深く考えさせ、進路意識の向上を図る。	△	◎	
		学年にふさわしい講演会や講座を企画運営し、社会に対する意識や自己探求への意識の向上を図る。	◎		
		オープンキャンパスの日程の通知など組織的に運営し、目標とする進学先への関心を深め、進路意識の向上を図る。	◎		
	各部・各学年・教科との連携を強化する。	各学年のキャリア計画が効果的な活動になるよう、各活動で反省記録を残し、生徒にとってよりよいものとなるようにする。	○	○	
		教科や分掌との連携を深め、生徒の活動が円滑に行われるよう支援する。	○		
		新きらめき委員会との連携を密にし、新きらめきアンケートから見える生徒の実態に即したキャリア教育を検討する。	○		
	春日学術研究会の活動を通して、上級学校を知り、視て、入試問題を体験することで、学びの動機付けを行う。	年間を通して計画的に大学(研究室)訪問を実施する。	△	○	
		外部キャリア形成事業に積極的に参加させ、その結果を学内生徒に還元させる。	○		
		昨年度の反省をふまえ、京都ハイレベル研修内容を充実させる。	◎		

研修課	各分掌と連携し、職員研修(校内外)の改善と充実を図る。	学校教育活動の活性化や評価規準を作成するために、職員の指導力向上に資する職員研修を企画し実施する。	○	○	○	評価規準は、職員研修を通し完成することができたので、試行しながら、改良していきたい。授業アンケートでは、次の学期に活用できるように早く集計とすることができた。しかし、相互授業参観では、特に1学期において、参加票の提出が少なかつたので、対応策を検討したい。教育実習は大きな問題もなく終了することができた。来年度は希望者が増加し(22名)、待機場所の検討が必要である。
		校外研修(教育センター・体育研究所等)の案内を適宜行い、外部事業との連携を図る。	○			
	授業改善に向け、各種アンケート、相互授業参観等の活性化を図る。	授業アンケートの通じて、指導の在り方を客観的に振り返り、学習指導の改善に役立てる。	◎	○		
		公開授業を通じて、保護者に本校の教育活動への理解を深めてもらう機会とする。	○			
		相互授業参観を通じて、本校生徒の実態に合った指導法を共有し、生徒の学力伸長を図る。	△			
研修紀要の内容の改善と充実を図る。	職員研修や校内の教育活動の実践・探求・発表の場とすることで、本校の教育水準の向上に役立てる。	○	○			
教育実習の改善と充実を図る。	教育実習生の指導を、教科指導員と連携しながら、教育実習生に多様な学校教育活動を経験させることで、後継者を育成する一助とする。	◎	◎			
研修部	生徒の学年に応じた読書を促進させ、情報を収集する能力を養わせるため、適切な選書を行い、図書館の利用を活性化させる。また、図書館報などの広報を充実し、生徒の図書貸し出し数を増加させる。	新入生へのオリエンテーションを行い、教員お奨めの本を紹介しながら読書に親しみを持たせ、図書館の利用を促進させる。	◎	○	○	新入生オリエンテーションや学級文庫はこれまでの実績とともに改善がなされてきており、昨年以上の成果が上げられた。一方で選書委員会は学校行事やその準備等に影響され、委員が集まりにくいという課題が見つかった。多読賞については、まだ一部の生徒しか意欲が喚起できていないので、全体に広める工夫が必要である。レファレンス機能は十分役目を果たしているが、書籍を準備するには時間がかかるので、早めの申し込みをお願いしていきたい。
		各教科・分掌・部活動として生徒の購入希望図書を掌握し、年4回行う選書委員会を有効に活用し、適切な選書を行う。	○			
		学級文庫を目的に沿ったものとし、生徒の読書活動を活性化し、豊かな感性を育てる。	○			
		図書館報を充実させ、生徒の読書に対する意欲を喚起し、図書の貸し出し数を増やす。(年間貸し出し数3100、各クラス1年間で100冊以上)	○			
	生徒や生徒図書委員に応じた図書館行事の在り方を検討し、生徒の能力を発揮させ、視野の広い責任感のある生徒を育てる。	図書委員を中心に読書会を実施し、読書に対する意欲を喚起するとともに、内容を深めて理解させ春日祭や中学生の学校見学等の学校行事で、図書委員会の活動を校外にも周知させ、活性化させる。生徒図書委員会合同研修会参加や生徒図書委員会による図書購入、公共や他校の図書館訪問を行い、図書館のよりよい運営について考えさせる。	○	○		
		図書館の広報活動に積極的に生徒図書委員を参加させる。	△			
		「多読」賞を、より多くの生徒が達成感を感じられる内容になるように工夫する。	△			
		各教科・分掌と連携を図り、自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	◎			
	図書館の学校内での役割を考え、レファレンスの機能を果たす。	各方面から情報を収集し、図書館の小論文関係の図書や京都学術研究会、人権学習の資料を充実させ、蔵書リストの周知を図る。	◎	◎		
		生徒図書委員や教師選書委員を通して広く購入希望を募り、購入した図書は迅速に貸し出しできるように、学校図書管理システム(e-slip)等を活用し、作業を進める。	○			

1学年	春日生としての誇りや自覚の育成	学校生活の中で、「春日高校五常」を意識した取り組みを促し、豊かな心を育む。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や掃除、時間への意識、礼節など、全員がしっかりと取り組むように学年全体で指導する。 ・BRUSHUPシートを活用して各自の行動計画を立てさせ、予習、授業、復習のサイクルに加え、自己課題を設定した学習習慣の定着を図る。 ・課題のレベル分けや、課外、土曜活用などにおける習熟度別の対策を、教科や分掌との連携を図りながら工夫することで学習意欲を喚起し、上位層の伸長、下位層の引き上げを行う。 ・学年内での情報交換を密に行い、クラスのリーダーから学年のリーダー、そして学校のリーダーとなる生徒を掘り起こし、意識を養う。 ・キャリア教育課との連携を図り、高い目標の設定とチャレンジする気概を育み、支援する。 ・高大接続プログラム等への参加や地域との連携事業への積極的参加を促す。 	
		出席皆勤の意義を周知、奨励し、99%以上の年間出席率と70%以上の皆勤率を目指す。	△			
		教師の率先垂範により、笑顔で挨拶することや場に即した礼法を習得させる。	○			
		清掃の徹底により、美化意識を高揚させ、感謝の心や思いやりの心を養う。	○			
	自主的・意欲的に学ぶ姿勢の育成	予習・授業・復習のサイクルの徹底により、高い目標や課題を設定させ、学習内容を充実させる。	△			
		アクティブラーニング等の達成感を味わえる授業の工夫により、学ぶことへの意欲を高める。	○			
		個々の目標に対して、その成果を評価し、適切なアドバイスにより次の目標へのチャレンジを促す。	○			
		個々の能力や習熟度に応じた丁寧な指導により、潜在能力を伸ばす。	△			
	たくましさや社会性の育成	部活動の意義を理解させ、加入を奨励し、加入率85%以上を目指す。	◎			
		学校行事の意義を理解させることで、主体的に取り組ませながらチームワークへの意識を高める。	◎			
		学年集会や学年行事における生徒自身による企画や運営の機会を設定し、リーダーシップを育む。	◎			
		積極的な指導により信頼関係を築きながら、生徒のつまづきを察知し、支え寄り添う指導を実践する。	○			
社会にはばたく力の育成	クラスや学年、部活などの集団の目標や集団における自己の役割を認識させた取り組みを促す。	◎				
	様々な場面において協働による問題解決の機会や場面をより多く設定する。	○				
	学校行事や授業等において協働する場面や機会を設け、コミュニケーション能力を養う。	○				
	校外での研修会やボランティア等への参加を奨励し、経験させることで多様な価値観を理解させる。	○				
2年生	「春日高校五常」の実践	皆勤の意義づけを徹底し、99%以上の出席率と50%以上の皆勤率を目指す。	△	○	<ul style="list-style-type: none"> ・皆勤の意義づけを再度行い意識を高める。 ・清掃・挨拶はレベル向上の指導を継続する。 ・学習時間減少が進路実現を阻む一因となる自覚を持たせるための仕掛けをする。 ・速やかな模試分析やそれに伴う指導等、個別にも全体にも徹底できる態勢を整える。 ・行事を通してのリーダーシップ育成に磨きをかけ、他の生徒の意識も向上させる工夫をする。 ・「総学」を活用したキャリア教育の意義、内容、実施方法を詳細に共有する場を確保し、生徒に更なる達成感を感じさせる工夫をする。 ・自主性育成の為に各部各クラスでの工夫を全体で検証しよりよい実践となるよう協議を重ねる。 	
		率先垂範により、丁寧な清掃活動を徹底させる。	○			
		挨拶の意義を再確認させ、明るい挨拶により、良好な人間関係の構築に努めさせる。	○			
		時間厳守の自覚を持たせ、授業前準備を確実にこなせる。	△			
	自主的学習の推進	予習・授業・復習のサイクルを徹底させ、平日2時間休日4時間、週1000分の学習時間を確保させる。	△			
		上位層への意識付け、下位層への個別指導等、個に応じた指導を徹底する。	○			
		得意科目の伸長、不得意科目の克服等、自己の課題を自身で解決する態度を育成する。	△			
		生徒会執行部、部活動生の活躍の場を更に増やし、リーダー育成に努める。	◎			
	リーダーシップと創造の精神の涵養	各学校行事の意義を再確認させ、主体的な実践を通して、創造する意欲と喜びを実感させる。	○			
		様々な活動の実践を通して、40周年記念行事を担う中核学年としての自覚を強く持たせる。	◎			
		春日学術研究会主幹の活動等に他の生徒も積極的に参加させ、高い志を学年全体に広げる。	○			
		キャリア教育の再整理と意識付けに努め、様々な機会を捉えて進路意識を高揚させる。	○			
自己変革による成長と豊かな人間性の獲得	進路活動HR等を活用し、目的に向かって努力する意義を理解させ、将来への展望を抱かせる。	○				
	HR活動等により切磋琢磨の機会を多く設け、仲間や教師との強い信頼関係を築かせる。	○				
	①出席皆勤を目指し、学年出席率99%以上を目指す。	○				
	②教師の率先垂範の下、さわやかな挨拶、感謝をこめた掃除、時間厳守ができるようになる。共に行うことで信頼関係を育てる。	○				
3年生	春日高校五常の実践により、社会で信頼される人格を育成する	①「授業には社会で必要なすべてがある」。緊張感、充実感のある授業を実践する。	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率は99%を越え、家庭・生徒・教師の連携はとれていた。朝課外の5分前遅刻が減らなかったのが指導不足だった。次年度朝課外も希望制になってくるので、遅刻が増えないか意識付けが大切になる。 ・掃除について、率先してできる生徒が少ない。自ら動ける生徒を多く育てることが大切だ。 ・AO・推薦が増えているので、1・2年での取り組みや指導体制を構築することが大切である。 ・大運動会や40周年式典を通して成長する姿が見られた。その成長を日常生活に生かされていない生徒もいるので、さらに「しかけ」が必要となる。 	
		②「継続は力なり」を記入することで、生活リズムを安定させ、平日4(6)時間、休日5(10)時間、週30(50)時間以上の学習時間を確保させる。	○			
		③居残り学習や休日登校を奨励し、自主的学習をサポートできるような体制を整える。	○			
		④第一志望を最後まであきらめず取り組むことができるよう、家庭とも連携をとる。(難関国公立大20名以上、国公立大学の合格者数200名以上)	○			
	高い志をかなえるために、授業心得五行を胸に、最後まであきらめず「チーム春日」で頑張る	⑤教師間の連絡を密にとり、進路情報を共有する。最後まで頑張る体制を確立する。	◎			
		①部活動に最後まで粘り強く取り組ませる。	◎			
		40周年行事を通して、リーダーシップ、フォロワーシップを育て、きらめく春日生となる	②学校行事への積極的な参加を促す。40周年記念春日祭、大運動会、自分に何ができるか考えながら参加させる。			◎
						◎

生徒の状況		評価	次年度の主な課題
いじめ撲滅に係る取り組み	本校の生徒は、まじめでおとなしい生徒が多い。しかし、思っていることを表現することが苦手な生徒が多いともいえる。また、スマートフォン等を使ったSNS等によるいじめ陰湿化は教員には見えにくくなっている実態がある。そのため、日頃の生徒観察、コミュニケーションや家庭との連携の必要性は大きく、その基盤となる教員との信頼関係の構築が重要である。そこで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決のために以下のような具体的な対応をとるものとする。		
	1 早期発見のために日頃の生徒観察や月一回のアンケート調査等の分析を十分に行い、気になる状況がある場合は職員会議等を行い、早期に職員の共通認識を図り、生徒への対応、保護者への説明と観察依頼等を行い早期の対応・解決を図る。	◎	◎ ・生徒の学校生活や家庭生活に関する種々のアンケートや面談は、生徒が抱える悩みや困り感を早期に発見し、的確な対応と早期解決に向けて大いに役立った。中でも、各学期末に行っている保護者向けアンケートは、直後の三者面談も含めて生徒・保護者双方から詳細に状況を伺うことができ、極めて有益であるため、次年度も充実させていきたい。 ・本年度は、国が制定する「いじめ防止等のための基本的な方針」の改訂に伴い、本校の「学校いじめ防止基本方針」を大きく改訂した。そのため、教職員に対して、年度の早い時期にいじめ撲滅のための研修会を行う予定であったが、変更を余儀なくされてしまった。次年度は計画通り研修会を実施できるように関係部署との調整を図りたい。 ・いじめ問題対策委員会の開催にあたっては外部専門家の参加も含めて適切な運営がなされた。専門家からは有益な情報やアドバイスをいただくことも多く、次年度も緊密な関係を維持していきたい。
	2 定期的に生徒サポート委員会や担任会等を行い、生徒の動態とともに学習状況等を確認している。その際に、いじめに関する観察結果や今後心配される事柄などを職員で共有・検討し、生徒観察の強化や臨時的個人面談を実施するなどの方策をもっていじめの防止等を心がける。	◎	
	3 定期または臨時に個人面談を実施し、生徒の状況や意識の変化を観察するとともに、友人関係の変化等を聞き取り、いじめ防止に関する情報収集の一助とする。	◎	
	4 各学期の終わりには保護者面談(年2回)を実施し、長期休暇中の生活について注意を促すとともに、いじめに関する保護者アンケートや家庭におけるいじめ発見のきっかけ(家庭用いじめチェックリスト)などを説明し、気になることは学校(担任)に連絡をいただくよう依頼する。家庭でのいじめ防止に関する意識の啓発と学校との素早い連携による早期発見、早期対応、早期解決を目指す。	◎	
	5 教職員に対しては、年度の早い時期にいじめ撲滅のための研修会を計画的に行い、早期発見のための生徒観察のポイントや早期の対応の在り方などを研修する。また、最近増加傾向のネットによる誹謗中傷からいじめに発展した事例、更には自殺に発展した事例などを事例研究し、このような事例が発生しないための教育活動の在り方や発生した場合の考え方と対応についても十分に研修を行う。	△	
	6 授業中等に生徒の気になる言動等があった場合は、授業を中断して生徒の言動について考えさせるなどの積極的な指導を行い、教員のいじめ撲滅についての姿勢を伝える。	○	
	7 いじめに対する教職員の在り方については、被害者の視点に立つことを大前提とし、いじめを絶対に許さないことを生徒にも集会等の機会あるごとに伝え、学校としてのいじめ防止や撲滅に向かう意志を確実に伝える。	◎	
8 「学校いじめ防止基本方針」を研修会に活用し、共通認識を図った上で生徒の状況の把握を含めた生徒観察を行い、学校としていじめを許さない姿勢を常に生徒に伝える。	◎		